

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣特別支援学校

学校番号

109

自己評価

学校教育目標	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな教育を行うことにより、一人一人の可能性を最大限に伸ばす。さらに、「強く 明るく 仲良く」生きようとする意欲を高め、一人一人の自立と社会参加を目指し、基礎的・基本的な力を身に付け、「生きる力」を育む。
評価する領域・分野	「教育活動・学習活動」(小学部)
現状及びアンケートの結果分析等	<p>【令和6年度学校評価アンケート小学部保護者回答分より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き改革への努力 69.1% (R05→06: ↑5.4%) ・進路情報提供 88.6% (R05→06: ↑11.7%) ・地域に開かれた学校づくり 72.4% (R05→06: ↑1.6%) ・特色ある教育活動 78.0% (R05→06: ↑1.1%) 否定的評価 8.1% ・豊かな専門性 84.6% (R05→06: ↓1.4%) 否定的評価 9.8%
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的知識を深め、教師としての資質向上を目指す。 ※職員の専門性の向上を図るために、積極的に研修の場を設定する。 ・地域に開かれた学校づくりや特色ある教育活動を発信する。 ※他の学校にない特色ある教育活動を展開しているが、発信力が足りないため、様々な方法で情報を発信していく。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・研修部と連携し、研修の場を設定し、紹介する。また、地域支援センター部の協力を得ながら、相談室「きらり」での研修を行い、地域のセンター的機能についての役割を学ぶ体制。 ・連携団体の2団体(セイハネットワーク株式会社・大垣ミナモソフトボールクラブ)と積極的に授業での指導や交流を行うために、渉外部の担当者との連携を密にできる体制
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門性を高めるために、研修の日や学部会など定期的に研修の場を設定する。また、職員が地域のセンター的機能について理解し、学校や地域で専門性を有効に発揮できるための体制を整えていけるよう、職員に働きかけを行う。 ・OKB農場での田植え稲刈り体験、大垣ミナモソフトボールクラブとの交流、セイハダンスアカデミーによるダンスレッスン等の活動について、部懇談等で紹介したり、学校だよりや報道等で積極的に発信したりすることで、地域に開かれた特色ある教育活動への理解を図る。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<p>【令和7年度学校評価アンケート小学部保護者回答分より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな専門的知識」の項目の肯定評価獲得を目指す。 ・「地域に開かれた学校づくり/特色ある教育活動」の項目では、10ポイント程アップを目指す。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的知識を高めるための取組のひとつとして、当校の相談室「きらり」での研修を実施し、希望者の約40名の職員が相談業務に携わった。 ・7月の部懇談にて、特色ある教育活動として7つの活動を紹介し、教育活動への理解を得た。 ・「進路だより」や「進路のしおり」等の配付による情報提供や、進路講演会を実施した。

評価の視点		評価
① 「豊かな専門的知識」の肯定評価の向上。		Ⓐ B C D
② 「地域に開かれた学校づくり」「特色ある教育活動」の肯定評価の向上。		A Ⓑ C D
③ 「進路情報提供」についての評価の維持、もしくは向上。		A Ⓑ C D
成果・課題		総合評価
<p>○「豊かな専門知識」については、研修の場を組織的に設定し、体制を整えたことで、職員の学びの場と時間を確保することができた。その結果、障がい児の理解、保護者対応等のセンター的役割について学ぶことができ、日ごろの支援に生かすことが出来つつある。(肯定的評価が5.5%向上、否定的評価が5.3%減少)</p> <p>○「地域に開かれた学校づくり」「特色ある教育活動」については、肯定的評価の向上は見られなかったものの、否定的評価が大幅に減少し、保護者から教育活動について理解を得られることができた。今後は、情報の発信だけでなく、保護者の参観や参加を呼び掛け、保護者と共に活動できる場を設定することを検討する。</p> <p>▲「進路情報提供」については、否定的評価が減少しているが、肯定的評価を大幅に向上させるまでには至らなかった。2年間行ってきた進路講演会の継続だけでなく、学級通信での発信を継続的に行う。</p>		A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も相談室「きらり」での研修を継続する。 ・特色ある教育活動について、保護者の参加を呼び掛ける。 ・進路支援部が話題提供を行い、学級通信に「進路コーナー」を作り、情報提供を継続して行う。 	

学校関係者評価 (令和8年1月28日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性を高める機会として相談支援したとのことだが、何をもって専門性を高めたと言えるのかが明確ではない。 ・小学部は、特に保護者や地域との連携を大切にするとよい。保護者に届くようなアピールや発信の仕方を検討してほしい。ツールやメソッドの見直しが必要である。デジタルを活用してオンライン研修を実践してはどうか。 ・職員の働き方については、時間を減らすことや質を減らすことより、雪かき等地域の方と連携できることは相談してすすめていけるとよい。
--

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣特別支援学校

学校番号	109
------	-----

自己評価

学校教育目標	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな教育を行うことにより、一人一人の可能性を最大限に伸ばす。さらに、「強く 明るく 仲良く」生きようとする意欲を高め、一人一人の自立と社会参加を目指し、基礎的・基本的な力を身に付け、「生きる力」を育む。
--------	--

評価する領域・分野	「教育活動・学習活動」 (中学部)	
現状及びアンケートの結果分析等	【令和6年度学校評価アンケート中学部保護者回答分より】 ・学校間交流の積極的な参加 (R05→06: ↑7.8%) ・進路指導における関係諸機関との連携 (R05→06: ↓9.2%) ・地域に開かれた学校づくり/特色ある教育活動 (肯定評価低, 否定評価高)	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・中学部卒業後に向けて丁寧な進路支援を行うとともに、将来的・展望的な情報を伝える。 ・年間の学習活動を整理・精選したうえで、交流や地域行事へ積極的に参加して当校の情報を発信し、共生社会の実現の一助となることを目指す。 ※学校・部の指導方針を保護者に明確に伝え、理解を得て支援にあたる。	
重点目標を達成するための校内組織体制	・進路支援部の中学部職員による進学に向けた支援体制と、進路支援部全体として、将来を包括する保護者のキャリア像の具体化。 ・教務部により、部の教育課程・時間割・年間計画を学校全体規模で見直す。 ・行事参加時の学校全体組織の立ち上げと外部への情報発信体制整備。	
目標の達成に必要な具体的取組	・中学部段階での、実態に沿った丁寧な高等部へ向けた支援。進路支援部長による、保護者に向けた、将来を包括するキャリア講話・相談会等の実施。 ・生徒が落ち着き、見通しをもち、日々過ごせる日常を目指す。 ・参加意義を熟考したうえで行事に参加し、情報発信を行う。部レベルでの参加のみならず、目的を熟考し、学校全体での運営組織を立ち上げる。 ※部としての懇談の実施や通信の発行を通して、説明できるようにする。	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	【令和7年度学校評価アンケート中学部保護者回答分より】 ・「進路指導における関係諸機関との連携」「学校間交流の積極的な参加」等の項目のポイントアップを目指す。 ・「地域に開かれた学校づくり/特色ある教育活動」の肯定評価増を目指す。 ※全体として、教育目標や指導の重点が保護者に伝わったかどうか。	
取組状況・実践内容等	・今後に向けた進路指導主事講話、施設・高等部作業実習見学等の保護者向け研修を多く企画した。 ・学校間交流は、事前の出前講座や趣旨確認により、目的の確認や相互理解を深めた。 ・地域資源を活用した授業の実施、地域行事への参加等を積極的に行った。 ※これまで部として参加していた学校所在市の祭へ、PTAを中心に学校全体の任意参加を促し、広く発信する機会となった。 ※2回の部懇談・3回以上の通信発行を行い、教育方針等を伝えた。	
評価の視点		評価
① 「進路指導における関係諸機関との連携」「学校間交流の積極的な参加」の評価の維持もしくは向上		A B ◎ D
② 「地域に開かれた学校づくり」「特色ある教育活動」の肯定評価獲得		A ◎ C D
③ 「教育目標・教育指導の重点に共感」項目の評価向上		◎ A B C D

成果・課題	総合評価
<p>○学校や部の教育方針に共感する保護者の声が多く、積極的な協力を得られた。 課題が多かった「教職員の親しみやすさ」の項目についても向上した。</p> <p>○部の行事を実情に即したものにしたうえで、外部講師や地域資源を活用した学習を行ってきたことで、特色を生かした教育実践としての賛同を得られた。</p> <p>▲進路支援に関しての取り組みについて充実させてきたが伝わっていない部分が多かった。目前の進路と先を見据えた進路双方について説明が必要だった。</p>	<p>A ② C D</p>
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部懇談の機会を早期に設け、保護者へ方針と重点を丁寧に伝たうえで支援にあたっていくことで、保護者からのより積極的な協力が期待できる。 ・地域資源（フレンズパーソン等）を生かしてキャリア教育をより推進したり、学校間交流の充実に努めたりし、その成果を外部へ発信する。 ・キャリア教育について、生徒に対して、目前と将来を見据えて行う教育内容や積み上げを視覚的に提示する。また、保護者に対しても、保護者が3年間で、当校において学ぶことができる研修内容を分かりやすく示す。

学校関係者評価 （令和8年1月28日実施）

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各年齢に合った、適切な支援が講じられている。キャリア教育については、学校として一貫して発達を見越した支援が行われている。 ・様々な場で、生徒自身が思考し、発言や会話をしていく場を設けることが、社会自立につながる。 ・学校評価が低かった原因を解明した上で進めてほしい。「どうして評価が低いのか」を保護者に聞くと良い。数値は数値として捉え、あまり振り回されなくてもよい。しっかりと対応されているのでよい。 ・学校評価の各項目で評価が低い理由を書いてもらう欄を追加するとよい。
--

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣特別支援学校

学校番号

109

自己評価

学校教育目標	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな教育を行うことにより、一人一人の可能性を最大限に伸ばす。さらに、「強く 明るく 仲良く」生きようとする意欲を高め、一人一人の自立と社会参加を目指し、基礎的・基本的な力を身に付け、「生きる力」を育む。
--------	--

評価する領域・分野	「教育活動・学習活動」 (高等部)
現状及びアンケートの結果分析等	<p>【令和6年度学校評価アンケート高等部保護者回答分より】</p> <ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価が増加した項目 豊かな専門知識 (↑9.0) 否定的意見が増加した項目 地域の行事への参加及び地域の施設の利用 (R05→↑8.1%) <p>※地域の行事への参加及び地域の施設の利用については、保護者に情報発信していくことや地域のイベントに参加する取り組みが十分ではない。</p>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 個々の実態を的確に捉え、指導内容・指導方法を工夫して、基礎的・基本的な知識・技能を習得し、さらに主体性を引き出す。 社会の一員として自立するために必要な勤労観や協働の意識を育成する。 社会の中で様々な事柄と関連付けながら、自ら実際に活用できる能力を育成する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 作業主任会、学年主任会、学年会、学部会との連携体制 校内における生徒ケース会議、校外における関係者連携会議等における情報共有体制
目標の達成に必要な具体的な取組	<p>【基礎的・基本的な知識・技能の習得と自ら学ぶ意欲・態度の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 状況に応じて自らの命を守ることができる力の育成を行った。 体験的な学習・探究的な学習を重視した。 個に応じた指導内容やICTの活用等、多様な学び方の充実を図った。 規則正しい生活の確立を目指した。 コミュニケーション能力の伸長、情報リテラシーの育成を図った。 挨拶、マナーの習得を目指した。 <p>【職業観、勤労観の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会の一員としての自分の生き方を考える学習活動の展開を行った。 職場見学、現場実習、インターンシップ、校内作業実習の充実を図った。 作業製品販売会等への計画的な取組みを実行した。 進路支援の充実を目指した。 <p>【保護者・地域社会・関係機関との連携強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者への情報発信と授業参観・懇談機会の充実を図った。 MSL活動や現場実習等を通して地域の中で育ち、地域に貢献する活動の充実を図った。 関係機関(福祉・行政・医療等)と連携し、社会参加に向けた切れ目のない支援体制の構築を行った。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画や個別の指導計画に基づき、適切な支援と評価が適切であったか。 作業学習の在り方について内容を検討し、実習等の評価をフィードバックしたものであったか。 保護者や関係機関と連携を強化して在学中から包括的な支援をし、卒業後の生活を整える準備ができたか。

取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画を軸に基本的な生活習慣の確立に向けて支援を行った。 ・作業学習で大切にしている点など話し合いながらできた面とできなかった面を洗い出し、分析を行った。 ・福祉就労制度が移行するにあたり、当校を会場に市町の福祉課、相談支援事業所を招いて説明会と相談会を開催し、生徒及び保護者に進路決定までの手続きを確認したり、進路について相談をしたりする機会を設けた。
評価の視点	評価
① 個別の教育支援計画、個別の指導計画の目標や手立て、評価は適切であったか。	A B C D
② 作業学習の内容は実習等の評価を踏まえたものであったか。	A B C D
③ 関係機関と連携することができたか。	A B C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○ 幅広い生徒の実態に合わせて、同じ教育課程の中身を細分化して個に応じた指導を各所で工夫することができた。 ▲ 作業学習における指導内容や大切にしている点について、教師の共通理解が弱い面があった。また、会計業務等について連携不足の面があり、適性に処理できる体制と意識改革が必要である。また、進路に関して様々取り組みをしてきたが、保護者アンケートの評価は低かった。 ○ 生徒の諸課題において校内だけでなく、家庭や関係機関と連携しながら支援することができた。 	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態についての指導や支援について、学級担任を中心としながら、学年や作業班、部全体で話し合うことができるような意識付けをしていく。 ・進路指導主事を中心として進路業務の内容や意義を見直し、役割分担を明確にして、職員全体が共通理解をして業務を計画的に実行する。保護者や地域に向けて積極的に情報発信していく。 ・作業学習の会計業務については実習助手が中心となり、売上金額の処理、会計書類の準備等を行いながら販売会の充実に努める。また、作業主任や進路指導主事が補完する体制を構築していく。 ・生徒の進路決定に向けた取組や安定した学校生活を送ることができるように、市町の福祉課や相談支援事業所等との連携を深め、複数の機関で連携しながら支援をしていく。

学校関係者評価 (令和8年1月28日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の方に作業学習で自分の役割を説明する機会はとてもよい。今後は、中学部の生徒や自分の両親に説明する機会をつくる等、自分達で考え伝える機会を作るとよい。 ・小学部、中学部、高等部とそれぞれの児童生徒の実態に合わせて色々と活動しているので非常によい。新しいことを実施するのは大変だが、教職員が無理せず頑張ってもらいたい。
--